

4. SEEA に関する国際動向

SEEA-CF が採択された第 43 回国連統計委員会（2012 年 2 月）以降の SEEA に関する国際会議等の資料を収集整理した。

1. 第 44 回国連統計委員会（2013 年 2 月）

同会議での公表ドキュメントの中で、バックグラウンドドキュメントとして、以下の SEEA 関連資料が公表されている。

ドキュメント ad : <http://unstats.un.org/unsd/statcom/sc2013.htm>

- ① System of Environmental-Economic Accounting for Energy: SEEA-Energy
- ② System of Environmental-Economic Accounting: SEEA Applications and Extensions
- ③ System of Environmental-Economic Accounting (SEEA): Experimental Ecosystem Accounting
- ④ Research Agenda for SEEA Experimental Ecosystem Accounting
- ⑤ The process of drafting SEEA Experimental Ecosystem Accounting
- ⑥ The process of drafting of the SEEA Applications and Extensions and summary of the outcome of the broad consultation
- ⑦ The process of drafting SEEA Energy
- ⑧ Implementation Strategy for the System of Environmental-Economic Accounting (SEEA)

2. 専門家会合

第 43 回国連統計委員会の開催以降に、SEEA の専門家会合が以下のように開催されている。

2012 年 5 月 生態系勘定専門家委員会

2012 年 6 月 第 18 回環境勘定ロンドングループ会合

2013 年 6 月 第 8 回国連環境経済勘定専門家委員会

2013 年 11 月 第 19 回環境勘定ロンドングループ会合

2013 年 11 月 水勘定と統計の編集のためのガイドラインに関する専門家グループ会合

これらの会合で提供された資料によって国際的な動向をみる。なお、表-1 に SEEA 会合と研究会の開催状況を示す。

表-1 SEEA 会合と研究会の開催状況

年	月 日	開催地	名称
2013			
	12月10-13日	Kampala, Uganda	西アフリカ及び東南部アフリカにおいて2008SNA、2012SEEAと補助統計を実施するための開発プログラム
	11月20-22日	New York, USA	水勘定と統計の編集のためのガイドラインに関する専門家グループ会合
	11月18-20日	New York, USA	SEEA 実験的生態系勘定の実験ためのモデルアプローチと手法
	11月12-14日	London, UK	第19回環境勘定ロンドングループ会合
	9月23-27日	Sungkai, Malaysia	SEEAに関する第1回小規模地域コース
	9月17-20日	Rio de Janeiro, Brazil	南アメリカにおいて2008SNA、2012SEEAと補助統計を実施するための開発プログラム
	8月20-23日	Apia, Samoa	太平洋地域において2008SNA、2012SEEAと補助統計を実施するための開発プログラム
	6月20-21日	New York, USA	第8回国連環境経済勘定専門家委員会
	6月17-19日	New York, USA	「SEEAの世界規模での実施プログラム」国際会議
	2月26-3月1日	New York, USA	国連統計委員会 第44回会合
2012			
	11月27-29日	Lima, Peru	南アメリカでの水勘定と統計の研究会
	11月27-29日	New York, USA	「生態系と経済と人間活動に対する生態系サービスの接続に向けた」国際セミナー
	11月2-4日	Ottawa, Canada	第18回環境勘定ロンドングループ会合
	9月11-13日	Ottawa, Canada	北アフリカのフランス語圏における水勘定と統計の研究会
	6月14日	Rio de Janeiro, Brazil	「SEEA-グリーン経済と持続可能な開発の観察フレームワーク」SEEA サイドイベント Rio+20
	6月14日	Rio de Janeiro, Brazil	「各国の SEEA の実施-授業と学習」SEEA 持続可能な開発学習イベント Rio+20
	6月11-13日	Rio de Janeiro, Brazil	第7回国連環境経済勘定専門家委員会
	5月16-18日	Melbourne, Australia	生態系勘定専門家委員会
	3月20-22日	Beirut, Lebanon	中東各国における水勘定と統計の研究会
	3月12-17日	Marseille, France	第6回世界水フォーラム
	2月28-3月1日	New York, USA	国連統計委員会 第43回会合

<http://unstats.un.org/unsd/envaccounting/workshops.asp>

3. コアテーブルの動向

(1) OECD の SEEA の実行計画 (第8回国連環境経済勘定専門家委員会)

優先的に取り組むテーブル

- ①大気への排出 (CO₂、N₂O、CH₄、PFC、SF₆、NO_x 等)
- ②自然資産 (石油、ガス、鉱物、立木、オプションとして水、水産資源)
- ③その他 (エネルギーバランス、水への排出、マテリアルフロー、廃棄物)

(2) 国連統計部 SEEA の実行ツール (第 8 回国連環境経済勘定専門家委員会)

水のテクニカルノートの中でコア勘定として提案

①コアテーブル

- ・水フロー勘定 (PSUT)
- ・水資源資産勘定
- ・水の統合勘定

②補助テーブル

- ・水への排出
- ・水質勘定
- ・水基盤施設、水利権等の勘定

③拡張

- ・河川基盤の詳細
- ・産業と家計の詳細
- ・水資源の評価
- ・損失勘定

(3) SEEA 実行ガイドとツール (国連統計部) (第 19 回環境勘定ロンドングループ)

- ・コアテーブルは、簡潔で非常に適切な情報を提供する
- ・その情報は、根拠に基づく公共政策を作成する際に、指標と助成を導き出す鍵となる
- ・第 44 回国連統計委員会で、SEEA 専門家委員会からコアテーブルと勘定の開発が強調された
- ・コアテーブルの最終セット版はない—ここで議論するためのものである (No final set of core tables - for discussion here)
- ・国際的な報告についての短期計画はない (No short term plans for international reporting)

(4) 水のコアテーブルに関する概要提案 (国連統計部) (第 19 回環境勘定ロンドングループ)

(5) SEEA-CF 実行への OECD 意見 (第 19 回環境勘定ロンドングループ)

SEEA コアテーブルのプライオリティ

- ・GHG と大気汚染
- ・自然資産
- ・その他 (水、廃棄物、マテリアルフロー、EGGS、税)

(6) 水のコアテーブルのプレゼン（国連統計部）（ウガンダ研究会）

同ミーティングで、国連統計部は水のコアテーブルをプレゼン。

3. 各国における環境経済勘定への対応動向（第19回環境勘定ロンドングループ会合）

国連統計部による資料

(1) 実施中／実施済み

- ①大気（カナダ、中国、EU、韓国）
- ②エネルギーフロー／資産（カナダ、デンマーク、フランス、ドイツ、アイルランド、メキシコ、オランダ、ノルウェー、イギリス）
- ③環境税（EU）
- ④環境保護支出（EU、韓国、メキシコ）
- ⑤EGSS（EU、韓国）
- ⑥森林（中国、フランス、エストニア、イタリア、メキシコ、ノルウェー、イギリス）
- ⑦養殖場（エストニア）
- ⑧土地利用（ドイツ、ノルウェー、イギリス）
- ⑨水（カナダ、中国、フランス、ドイツ、メキシコ、オランダ、ノルウェー、イギリス）
- ⑩廃棄物（フランス、メキシコ、ノルウェー）

(2) 計画中

- ①勘定
 - ・環境保護支出、エネルギー勘定、EGSS（EU）
 - ・開発戦略と長期開発計画（韓国）
 - ・統合エネルギー（ドイツ）
 - ・水（アイルランド）
 - ・炭素、農地、土地被覆を含む勘定（イギリス）
 - ・生態系勘定（オランダ）
 - ・天然資源ストック勘定、排出勘定、生態系勘定（カナダ）
- ②方法論
 - ・環境補助金、資源管理支出、森林と水勘定（EU）
 - ・国富（ノルウェー）
 - ・生態系勘定（ノルウェー）
 - ・評価（アメリカ）

4. 世界各国の環境経済勘定への取組状況

世界各国の SEEA への取組状況に関する調査は、現在、国連統計部が実施中（2014年3月公表予定）であるため、前回2006年に実施した「環境統計と環境経済勘定」に関する調査結果を紹介する。

(1) 環境経済勘定

環境経済勘定プログラムを持つ国は、全回答国 99 ヶ国中約 50%である。経済地域別では、先進地域が 73%、経済グループ別では、先進国は 84%である。地理的グループでは、ヨーロッパ・北アメリカ 70%、オセアニア 67%であり、日本を含む中央・東・南・東南アジアは 50%である。

(2) 経済領域別取組

経済領域別の勘定に取り組んでいる国は、世界全体で 44 ヶ国、領域では、エネルギー排出勘定が 75%と最も多い、環境保護支出勘定、水勘定、森林勘定、マテリアルフロー勘定/廃棄物勘定は、約半数が取り組んでいる。物的供給・使用表に取り組んでいる国は少なく、先進地域でも 10%である。

表1：各国における環境統計及び環境経済勘定プログラムの存在

	国の数 (1)	環境統計			環境経済勘定		
		A部分に回答した国の数 (2)	プログラムを持つ国の数 (3)	回答国の割合 (4)=(3)/(2)	B部分に回答した国の数 (5)	プログラムを持つ国の数 (6)	回答国の割合 (7)=(6)/(5) _s
国連のすべての加盟国	192	97	88	91	99	49	49
経済地域							
先進地域	48	39	38	97	40	29	73
開発途上地域	154	58	50	86	59	20	34
経済グループ							
先進国	37	32	31	97	32	27	84
体制移行国	19	11	11	100	11	3	27
開発途上国	136	54	46	85	56	19	34
地理的グループ							
アフリカ	53	13	11	85	14	5	36
中央・東・南・東南アジア	30	15	14	93	14	7	50
ヨーロッパ・北アメリカ	45	36	35	97	37	26	70
ラテンアメリカ・カリブ	33	18	16	89	18	4	22
オセアニア	14	6	5	83	6	4	67
西アジア	17	9	7	78	10	3	30

注：全体の評価は二つの部分で構成される：A部分は環境統計に、B部分は環境経済勘定に関するものである。すべての国が、両方の部分に回答したわけではない。したがって、(3)と(6)の列は異なる。

出典：「Global Assessment of Environment Statistics and Environmental-Economic Accounting」(2007年2月 Prepared by United Nations Statistics Division)

表8：各国によって編纂された環境経済勘定の測定基準（経済領域別）

測定基準	全世界		先進地域		開発途上地域	
	国の数	国の割合	国の数	国の割合	国の数	国の割合
国合計－世界	44	100	29	100	15	100
エネルギー・排出勘定	33	75	22	76	13	87
環境保護支出勘定	24	55	18	62	11	73
水勘定	22	50	16	55	9	60
森林勘定	22	50	13	45	9	60
マテリアルフロー勘定/廃棄物勘定	22	50	9	31	6	40
鉱物資産勘定	14	32	5	17	6	40
土地・生態系勘定	10	23	4	14	6	4
漁業勘定	9	20	4	14	5	33
物的供給・使用表	5	11	3	10	2	13
その他	9	20	6	21	3	20

注：EPEAは、環境保護支勘定のことである；MFAは、マテリアルフロー勘定のことである；PSUTは、物的供給・使用表のことである。

出典：同上

5. 実験的生態系勘定（EEA）への取組状況（SEEA 実験的生態系勘定の実験のためのモデルアプローチと手法）

同会合で先導的取組を発表した国と機関は以下のとおり。

（1）国

- ①オーストラリア
- ②ブラジル
- ③カナダ
- ④インドネシア
- ⑤ノルウェー
- ⑥ウガンダ
- ⑦サモア
- ⑧南アフリカ

（2）国際的取組

- ①欧州経済領域（EEA）
- ②生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）
- ③生態系サービスプロジェクト（ProEcoServ）
- ④生態系サービスの経済的価値評価（WAVES）
- ⑤国連開発計画（UNDP）